

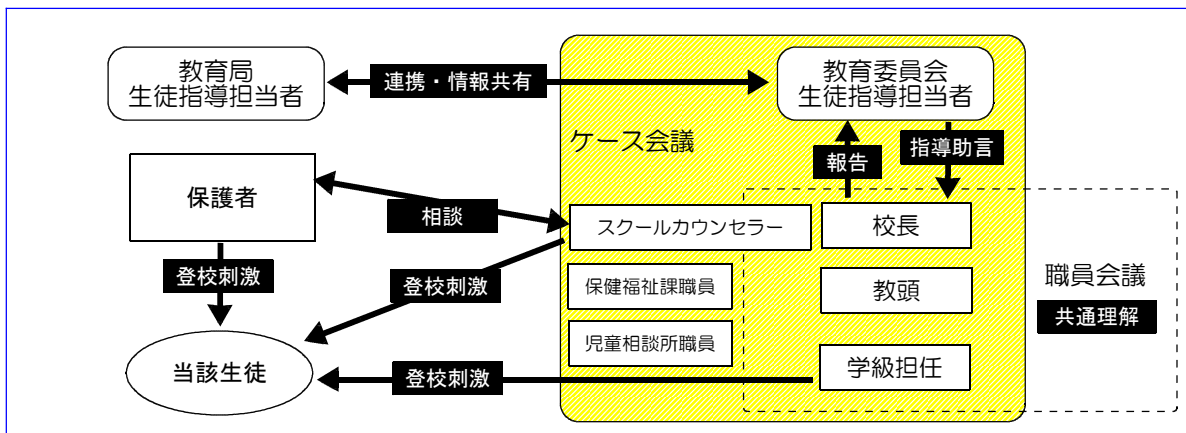
不登校児童生徒への対応事例9（中学校第3学年男子）

～関係機関との連携による対応～

問題の把握

当該生徒は、中学校第2学年の夏季休業前、保護者（父親）から進路のことで指導されたことをきっかけに、欠席し始めた。当該生徒の保護者（父親）は、学校に相談しながら、当該生徒に登校するよう働きかけた。しかし、当該生徒の不登校が改善されないことから、保護者（父親）が学校に対する不信感を抱いてしまい、理解と協力を得ることができない状況に陥ってしまった。

対応状況



3月下旬

校長、教頭、学級担任、保健福祉課職員、児童相談所職員によるケース会議を実施し、今後の対応について検討した。

4月上旬

学級担任が家庭訪問し、当該生徒と面談した際、当該生徒が精神的に不安定な状況であることを確認した。

その後、学級担任が週に1回の家庭訪問を行い、当該生徒及び保護者（母親）との関わりを継続させるように努めた。

5月上旬

教育委員会担当者から教育局に、本件についての報告があり、教育局はスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用を促した。

5月中旬

スクールカウンセラーが家庭訪問し、保護者（母親）との面談を通して、学校への不信感を払拭するよう努めた。

6月上旬

校長、教頭、学級担任、スクールカウンセラー、保健福祉課職員、児童相談所職員によるケース会議を実施し、今後の対応について検討した。

6月中旬

学級担任やスクールカウンセラーが家庭訪問し、当該生徒と面談した結果、落ち着いた様子が見られ、改善している状況であると捉えた。

不登校の問題を速やかに解消するためのポイント

- ・ 校長が指導方針を明確に示し、全教職員が共通理解を図って対応すること。
- ・ 関係機関と連携して情報を共有し、対応策を検討すること。
- ・ 学校、関係機関の役割を明確にして、それぞれの役割を果たすこと。